



2020年9月3日
東日本旅客鉄道株式会社

ダイヤ改正における終電時刻の繰り上げなどについて

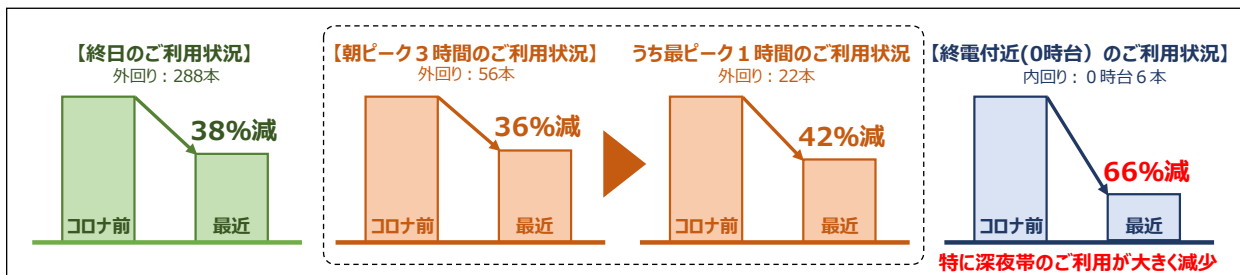
新型コロナウイルス感染症の流行を契機としたお客さまの行動様式の変化により、特に深夜時間帯のご利用が大きく減少しています。一方、安全かつ利便性の高い鉄道サービスをサステナブルに提供していくため、夜間の作業時間の確保が大きな課題となっています。

お客さまのご利用の変化への柔軟な対応と、大型機械の導入など効率的な作業体制確保のため、来年春のダイヤ改正で終電時刻の繰り上げなどを行います。これにより、作業時間が確保され、鉄道設備の改良・保守のスピードアップによるサービス向上や鉄道工事における働き方改革を実現していきます。ご利用の皆さまのご理解をお願いします。

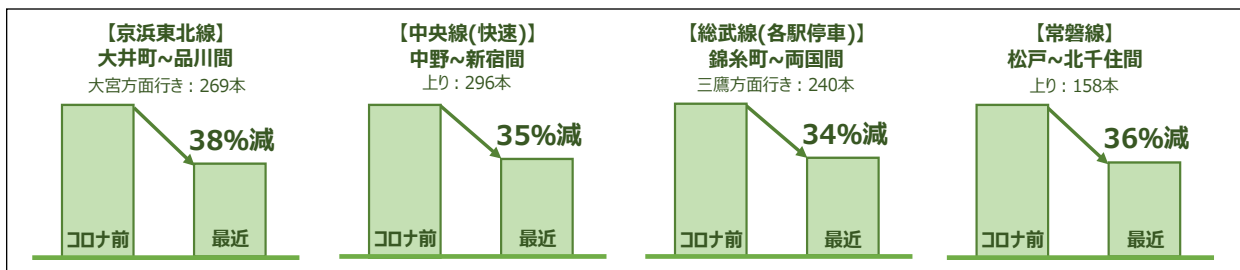
1. ご利用状況の変化

○新型コロナウイルス感染症の流行を契機としたお客さまの働き方や行動様式の変化を受け、鉄道のご利用状況は大きく変化しています。特に、深夜時間帯のご利用は大きく減少している状況です。

【山手線（上野～御徒町間）のご利用状況】



【主な路線のご利用状況（終日）】



コロナ前・・・2019年8月平日ご利用状況（お盆期間：8/10～8/18を除く）
最近・・・2020年8月平日ご利用状況（お盆期間：8/8～8/16を除く）

○今後、感染が収束した後も、テレワークやEコマースなどはさらに広く社会に浸透していくことが想定され、お客さまの働き方や、行動様式も、元に戻ることはないと考えています。

○こういった状況を踏まえ、鉄道事業者として安全かつ利便性の高い鉄道サービスを今後もサステナブルに提供するためには、お客さまのご利用の変化により柔軟に対応することが必要となります。

2. 鉄道工事を取り巻く環境

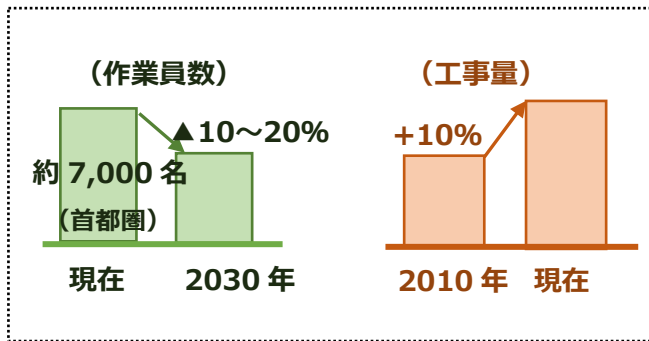
○人口減少に伴い、過去10年で建設業就業者数は約1割、当社管内の線路保守作業員は約2割が減少しています。今後10年も1～2割の作業員の減少が続くと見込んでおり、人材確保に向けた働き方改革が急務と考えています。

○一方で、設備の老朽化と新規設備の増加により工事量は過去10年で約1割増加しています。また、ホームドアやバリアフリー設備をはじめとした安全やサービス向上を目的とした工事も増加傾向が続く見込みです。

○ホームドアや駅改良など、鉄道設備の改良・保守に関わる工事については、多くの作業を終電から初電までの間に行っていますが、短い時間での工事となるため、一つの作業を複数日に渡り分割して実施するなど作業効率が悪く、工事に時間を要しています。そのため、これまで以上に効率的な作業体制の確保が課題となります。

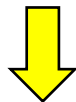
○この課題に対応するため、生産性向上に継続的に取り組んでいますが、今後さらなる作業の近代化・機械化を推進するためにも、機械搬出入などの準備時間（約60分）を考慮すると、240分以上の列車間合いが望ましいと考えています。

鉄道工事における人手不足の課題

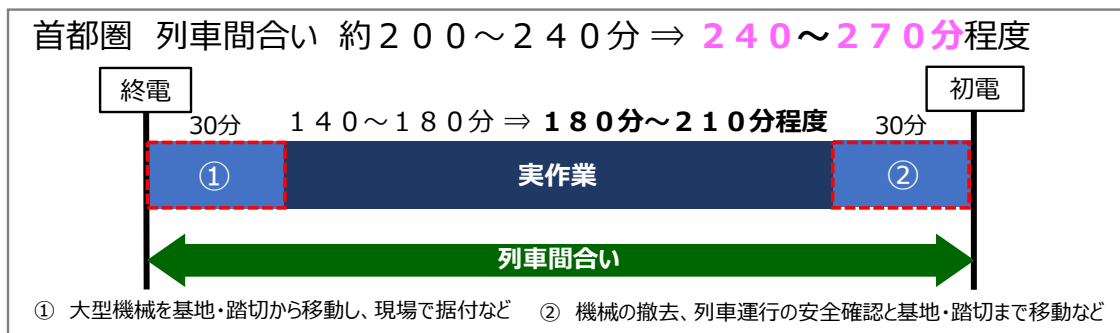


当社におけるこれまでの生産性向上の取組み

- (1) 保守量の削減
 - 構造強化による省メンテナンス化の推進
 - スマートメンテナンスの導入
 - 設備統廃合によるスリム化の推進
- (2) 作業効率の改善
 - 工事開始終了時の手続きのシステム化
 - 大型保守用機械の増備
 - 施工会社と共同した新規作業用機械の開発



さらなる作業の近代化・機械化の推進に向けて

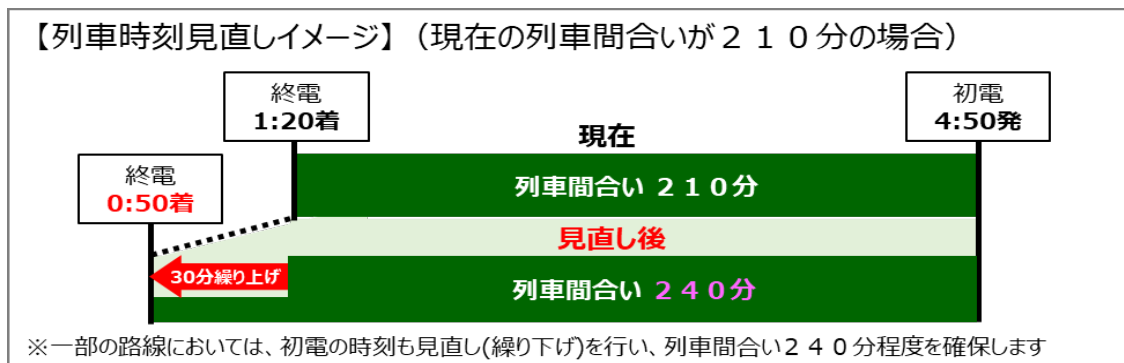


列車間合い拡大により期待できる効果として…

- 作業の機械化などで労力軽減と工期短縮により、作業員の「働き方改革」を支援します。
- ホームドアやバリアフリー設備などの駅改良の施工能率の向上が期待できます。
- ホーム上に必要となる作業スペース（仮囲い）設置期間を短縮します。
- 作業効率の改善などにより、コスト構造の見直しを図ります。

3. 終電時刻の繰り上げなど

- 主に東京 100 km圏の各路線において終電時刻の繰り上げなどを行います。
- 具体的には、直近のご利用状況を踏まえつつ、終電から初電までの間隔（列車間合い）を 240 分程度確保することを念頭に、各方面への終電時刻の繰り上げ（現行より 30 分程度繰り上げて、終着駅の到着時刻を概ね 1 時頃とする）を行います。また、一部線区では、初電時刻の繰り下げも行います。
- 終電の繰り上げなどにあたっては、混雑による「3密」の回避に十分配慮を行います。また、金曜日などは、必要により終電前に臨時列車の増発も行います。
- 朝の通勤時間帯を含め、このほかの時間帯についてもご利用状況を踏まえてダイヤの見直しを実施します。今後、線区ごとの具体的なダイヤ設定について調整を進めていきます。
- ダイヤ見直しの実施時期については、2021 年春を予定しており、実施線区や内容については、10 月にお知らせします。
- これからも、お客さまに鉄道をより快適に安心してご利用いただけるよう取り組んでいきます。



【別紙】大型機械導入による効率的な作業体制のイメージ

従来

- 人力による作業



機械化による労力軽減

- 大型機械の移動などのため実作業時間が減少



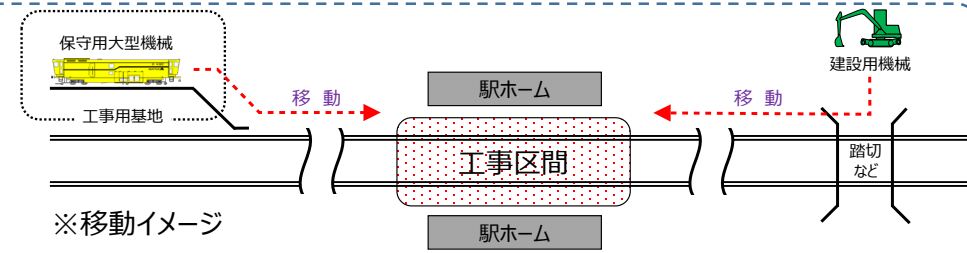
初終電見直し後

- 作業時間を拡大 施工効率を向上



鉄道工事における大型機械の移動について

- 保守用大型機械は工事区間より遠方（約5~10km/箇所）にある工事用基地と作業現場の間を移動します。
- 建設用機械は工事区間付近の踏切などから搬入して作業現場との間を移動します。



【別紙】列車間合い拡大による効果

■ ホームドアやバリアフリー設備などの施工能率の向上が期待できます



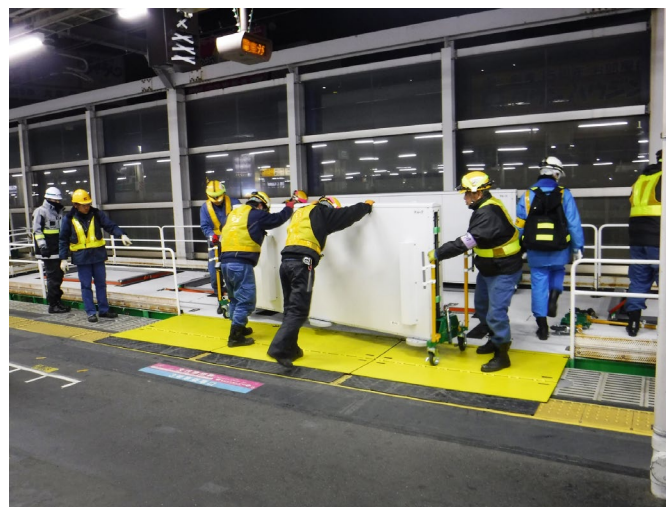
ホームドア整備



ホームドアの基礎工事（杭打ち作業）



大型機械によるホームドア運搬状況



【別紙】列車間合い拡大による効果

■ホームドアやバリアフリー設備などの施工能率の向上が期待できます



バリアフリー設備整備（エレベータ）

※さらに、工事に伴うホームやコンコースの作業スペース（仮囲い）の設置期間が短縮できます



工事期間中のホーム上の仮囲い設置状況



工事期間中のコンコースの仮囲い設置状況